

SEAN リレーエッセイ

SEAN会員のみなさんに、お願いしているリレーエッセーです。
最近の関心ごと、SEANとの関わりへの思いなどなど。
会員間のつながりになればと願っています。

時代を超えて共有できるもの …愛のつまった音楽と作曲家の生き方…

Brillante(ブリルランテ)主宰 川野恵美

小さい頃から引っ込み思案で通知表のコメントにはいつも「もつと積極的」の文字でもその反面、小学校高学年の時には、『何かひとつ自信をもてるものを持つとう、そしてふたたび父に再会した時には父にも自分にも恥じない生き方をしよう』と心に決めていた。

そんな「自分に何ができるだろう?」と模索しているとき、私に「耳がいいからピアノは続けてね」と言ってくれたさつた恩師がいた。その一言だけを信じたからこそ今の自分がいる。

その頃から猛練習し、「運が良ければ受かるでしょう」と言われた音楽高校受験。受かったものの実技の成績が悪く、母は遠く広島から東京へと呼び出され……。大学にも進められれども特にうまい訳でもなくずっと気持ちは劣等生のままだった。卒業しても何かしつくりこなくて音楽療法やアロマなど「癒すこと」「癒されること」に興味を示し、勉強会にもよく足を運んだ。結婚し長男が生まれ、何となくピアノの先生で収まっていた私に大きな転機が訪れた。父の死。そして同じ年の子ども

もを持つ同級生の突然の他界。人は初めて『死』を自覚したときに、『生きる』ということを自覚するのではないかと思う。そして最期の瞬間を迎えるときに自分は「思い残すことなく胸張っていられるか?」と。同じ年でありながら、その友は立派に演奏活動を行っていた。私のように人からの評価を恐れず、演奏することを楽しむ沢山の方と共有していた足跡がそのときの私を後押しした。それが3年前。そして思い切って始めた私なりの「Brillante (ブリルランテ)」という会。

子育てにおいても女性は明らかに男性よりも子どもと接する時間は長く、煮詰まることがある。1対1の付き合いの中に、自分とは違う人格の子どもがおこすトラブルなどで、人間関係が複雑になっていくことへのしんどさと緊張感……。作曲家の生き方に触れたとき、どんな作曲家も今の時代の「ぶつう」という枠に押し込められる人など一人もなく、「あるがままに」生きていく。きっと今自分が置かれている環境よりも遥かにいいとは言えないだろう社会状況、環境だ

るうに。またこの世に数えきれないほどの曲には、愛があふれ人と通じた時の喜びを映し出した曲もあれば、愛があるがゆえにどうにもならない感情や想いを託した曲もある。そんな曲を聴いたとき、「同質の原理」というかたちで私たちの心にゆるみをもたらしてくれる。

そんな時代を超えて共有できる素晴らしい曲を共に感じ、提供できればという思いで作曲家のエピソードをお話ししながらピアノを演奏し、時にはカラーセラピストの方を招き、色も一緒に感じてもらったり、映像を加えイメージしてもらったりして、「今の自分を感じる」時間をもってもらうことを目的に活動している。

この仕事をする上でまだ園児のいる私には「SEAN」の「生活助っ人」「KIDSステーション」、そして目的の根本が同じところにあるSEANの存在は気持ちの上でもありがたい存在。

もっと人として生きやすく、音楽と愛に満ち溢れた世の中になるように、できることからコツコツと今後も続けていきたいと思う。

